

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第1回 加東市環境市民会議
開催日時	令和元年12月26日(木) 午後7時から午後9時まで
開催場所	加東市社公民館 研修室
議長の氏名 竹村厚司 出席委員の氏名 芦谷恒憲 臼井純男 黒崎昇 井上益子 片山剛志 森美佳 丸山健次 柳隆之 植田竹吉 出井和典 衣笠比佐志 戸田恵造 井上綾乃 笠井郁男 小薮準也 藤井悦雄 中嶋研二 丸山正人 欠席委員の氏名 今川哲郎 藤本真佐己 藤井哲夫 余部衛	
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 市民協働部 部長 芹生泰博 市民協働部生活環境課 課長 眞海秀成 同副課長 藤原義守 同主査 今岡良介	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開会 2 委嘱 3 自己紹介 4 委員長、副委員長の選出について 5 第2次加東市環境基本計画について 事務局から「計画策定等について」「国、県の動向について」「市民アンケート（案）について」資料1、2及び3に基づき説明 【質疑応答等】 委員 既に1回目の1次計画というのはできているわけですね。それから10年近くが経過し、状況が変わってきているということを踏まえて作り直す、検討し直すというのはどうですか。だから、足場はあるわけですね、たたき台というか。状況が変わってなければそのままいいといえいいですね。 だから、1次計画のどの辺が合わなくなっているのか、状況はどのように変わってきているのかっていうところを重点的にやったら、自然と2次ができるのかなと今聞いていて思いました。だから、例えばアンケートを集計して、そこから出てくる答えが1次のアンケートとどういう方向が変わっていつているのかとか、1次と2次でどれぐらい市民の考え方が変わってきたのかっていうところを埋めれば、またその辺が役に立つのではないかなというような気がしていて、丸々全部をつくるわけではないので、変な言い方かもしれませんが、気楽かなという気もしているのですが、いろいろ考えられているので私達はそれの路線で埋めていったらいいのですけれども、そんなふうに思っています。	

委員長 事務局ではどういうふうに思われますか、これについては実は私もそれと同じような形で聞こえたんです。

事務局 失礼いたします。

先ほどの説明の中でさせていただいたように、策定から8年という期間が経過していますので、環境については本当に世界的に大きく変わっている部分がありますし、地域などでも地域課題というのが大きく変わってきているので、そこを重点的に取り上げていくといえますか、どうしても地域にかかわる問題がクローズアップされてくると思いますので、そこを淘汰するといえ言い過ぎかもしれませんが、加東市としての独自性が出るのかなと思っております。

後ほど説明する市民アンケートの中で項目の設定の仕方は10年前と比較できるような項目設定になっている部分がありますので、それは市民アンケートをした結果、前の結果との比較が出るような形になっています。それは8年が過ぎた中で前回との違いの部分が出てくる部分かなとは思っております。

委員長 ありがとうございます。

前回やっていた分から、例えば概要版というのがありますけど、課題解決のための行動方針というところでこのような活動ができるとかやっというところを10年前に一応披露しましたよね。この辺が環境市民会議で議論して出てきたものなのです。これがこの10年間で、何が問題点みたいなのか具体的にありますでしょうか。その辺まづは市役所の事務局のほうにお伺いします。少しだけでも例として、例えばどのような取組があるのかなとお聞きしようかなと思います。

事務局 今、委員さんからもありましたように、次回に取りまとめているものを皆さんに案を提示させてもらって協議、話し合いをしていきたいなと思っております。特にという部分につきましては、1番目は緑のカーテン普及大作戦ということに記載していますが、これは加東エコ隊が中心になって学校等に積極的に出向いてゴーヤカーテンの普及を展開されています。それがどれだけ加東市内において浸透しているのかというところは、また委員の皆さんで次回検討していただけたらなというふうな形で思っております。そんな形で、それぞれのことについて次回提示させていただきたいなと思っております。

毎年、今お手元に配付させてもらっております100ページほどの環境基本計画の行動方針と、別冊の概要版がありますが、それは毎年点検と評価をするということになっておりますので、それらを取りまとめたものを次回に提示させてもらいたいなと思っております。これは皆さん方にも今日お手元に配付しておりますので、皆さんなりに身近なところでどうだったというところを考えていただければなと思っております。

委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、次の市民アンケートについてご説明をお願いいたします。

事務局 失礼いたします。まず、事前に開催案内と同封をさせていただきましたアンケートの案ということで、お持ちになられてますでしょうか。

今回のアンケートにつきましては4種類ありまして、市民アンケート、事業所アンケート、小学5年生、中学2年生、アンケートとしましてはこの4種類を予定しております。まず、市民アンケートにつきましては、1,500人を対象としたアンケートを予定しております。

まず、1枚めくっていただきまして、まずはお住まいの周辺環境の現状ということを知っております。このあたりがワークショップの活用を使う予定で、行動方針であったり重点プロジェクトの検討の材料になってくる予定です。

その次のページにつきましては、まず問4、これはよりよい環境のため市民の方が日ごろから家庭で行っている、気をつけている取り組みについて分野ごとに知っている内容になっております。当然、ここは現状を把握するとともに1次の行動方針の成果、先ほどのどれだけでできているのかなという部分が伴い、方向性が見えてくるような内容になっております。

3番目の主要環境政策の取組について、問5、問6、問7までにつきましては、前回の策定からの10年間での変化の比較を導くような設問になっております。

最後の問8につきましては、環境の保全のために市民、事業者、行政が協力して取り組むという考え方の中で市民の考え方の変化、また約10年間で前回に比べてどのような考え方の変化があったかという比較をできるような設問設定になっております。

次の事業者アンケートにつきましては、予定としましては150の事業者の方にアンケートをお願いする予定にしております。これは、前回のときにはなかったもので、今回初めて事業者アンケートということで実施をさせていただきます。

内容につきましては、1枚開いていただきますと事業所の環境に対する取り組みということで、地球環境問題であったり事業活動におけるごみ問題へのかかわり、事業活動における生活環境、大気、騒音、振動、事業活動における自然環境へのかかわり、問6については従業員等に対する環境学習についての設問となっております。

最後のページです。こちらについては、事業者として市の環境施策の取り組みについてどのようなものを期待するかという部分と、問8は先ほどと同じように市民、事業者、行政が協力して取り組むという考え方の中で事業者の方々の考えはどういうものであるかという設問となっております。

次に、小学生と中学生につきましては、まず問いの中身については同じ内容になっております。まず、小学5年生につきましては、市内の小学5年生ということで約400名、中学生につきましては市内の中学生ということで約420名、小・中学生で約820名の小・中学生を対象にアンケートを学校にお願いをする予定にしております。

まず、1ページを開いていただきますと、2番目に学校の周りの環境についてということで、環境に関心がありますかということを設定しておりますが、これについては前回8年前にも同じような内容をしていますので、前回との関心度の比較ができるような内容となっております。問3につきましては、関心がある環境問題はどんなことですかということで、これについては関心のある環境問題を把握し、計画の中で今後ポイントとして上がってくる環境学習をどういうものにつなげていけばいいかというような設問設定になっております。

問4、これは家や学校の周りの環境について普段感じていることで環境の現状の把握をするとともに、これも前回の調査との比較をできる設定になっております。問5につきましては、家や学校の周りの環境についてこれからどのようなことが大切だと思いますかということで、環境についての子供たちの重要度の把握をするとともに、これも前回の調査との比較を行えるようになっております。

最後、5ページです。これは日常生活でどんなことに子供たちが取り組んでいるかということで、実際に家庭で取り組んでいる取り組み状況の把握とともに、これも前回の調査との比較ということで8年前と今回との、前回調査との比較ができるような設問設定となっております。

このアンケート調査の結果を踏まえて、次期の環境基本計画では課題であったり展開する施策の方向性を見出せるような調査の内容としております。

委員長 どうもありがとうございました。御質問ありますでしょうか。

委員 今、一通りアンケートの案についてご説明いただきましたが、まず、全体を通して思ったのは、全体として今時代が変わっており、色々なアンケートをとる場合に性別を割愛するアンケートが多いというふうに思っております。LGBTの関係で今出されているアンケートの場合は①男性、②女性、③回答したくない、この回答したくないに対しても抵抗のある人がやはりいるということを認識すれば、統計処理上性別を必ず入れなければだめなのかどうか。今までの比較から絶対必要ということであればまたそれに倣うとは思いますが、時代の流れから見ると、性別がもし必要なければ、事業者などの場合はもう性別は当然ないと思いますので、それが1点です。

それから、小学校5年生、中学校2年生というふうに設定されていますけれども、前回もその学年ですか。

事務局 前回も5年生、2年生です。

委員 それを比較されてると思うのですけれども、その設定の理由は何か根拠がございますか。

事務局 当初設定の根拠と理由ですね。そこまで確認はしておりませんので、確認はさせていただきます。

委員 はい。もう一点ですけれども、市民アンケートの場合は、これまでもそうだったと思いますが、無作為に抽出した20歳以上というのが対象になっていると思うのですが、昨今の流れからいいますと、選挙権が18歳になっております。政府は成人年齢を18に下げるというふうな方向です。その辺の将来の見通しからいったら、市民アンケートの場合今後18歳以上ということも考えてあるのか、この場合ある程度ずっと集計すると、早い話が中学生、小学生の代表の意見がまとまるとは思いますが、いわゆる高校生の年代の意見がどこにも反映されないというふうになってくると思うのですが、いかがでしょうか。

事務局 その部分につきましても、検討はさせていただきます。まず選挙権の話が出たので、最初は18歳からというのも検討はしたのですが、前回も20歳でのアンケートということ踏まえ、今回も20歳ということで提示をさせていただいております。

学識経験者として、統計を専門にされている委員様がおりますので、そのあたり、何か統計処理上という話があれば、御教示いただけませんか。

委員 統計処理上、一番重要なのはどういうサンプルが集まるかということです。例えば1,500名のアンケートが、どれだけ集まるかわからない中で、一般的に4分の3ぐらいあれば統計処理ができるとされているのが一般論です。ただ、偏りがあるかないかというときに、男性とか女性とか年齢とか、母集団で比較しますので、偏りがあるかないかという話になると、やっぱり男女は必要じゃないかと思います。

委員 そればどうしてですか。

委員 なぜ必要かといいますと、性別がないと男性ばかりの可能性もある。それが確認できない。偏りがあれば、男性ばかりであれば男性の意見になってしまうので。実際、市内には男女の数は半々ぐらいで、それを確認するためには、男性、年齢、これは必須だと思います。

あともう一つ、私の私見ですが、事業所は150となっておりますが、サンプルをとる場合、事業所には大企業、中企業、小企業があるんです。従業者別に母数の数が、地域ごととか業種別とか、そういったところをきっちりサンプリングしてないと、偏りがある回答を集めたら実際それが事業所の意見だということ、そうでもないケースが生じますので、大企業から何社とか中企業から何社とか、あそここの業種から何社とか、と選ぶ必要があると思いますので、事業所については一般論で、無作為になると偏る、あるいはここは必要だということがあると思いますから、そういうところを注意すべきじゃないかなというふうに思います。

ただ、比較するということで、全体と比較するということがあるんですけども、それも全体を比べて、例えばサンプル数が極端に少ないとか、そのあたりをちゃんと確認しておかないと比較というのはなかなかできないのではないかなというふうには私は思いました。どういったことを分析したいんだということをちゃんと明確に最初から設定しておかないと後からもう修正できないので、そのあたりはちゃんと確認する必要があるかなというふうに思っております。

委員長 どうもありがとうございます。

委員 性的マイノリティーの方への配慮という御意見がありましたが、アンケートはあなたが男性か女性かを問うものではないと思いますので、あくまで答える当人が感じる性を書いていただけたら、それが今の状況調査の意味合いも含めて両者成り立つ話なのではないかなと思っております。いかがでしょうか。

委員長 いかがでしょうか。

委員 普通はそれが合理的なことだと思います。確認ですが、もし仮にどれにも丸され

なかった場合、その統計は無効になりますか。

委員 無効ではないです。男性女性の母集団の確認ということともう一つ、男性の意見と女性の意見にひょっとしたら差があるのかという仮説をもとに、その分析上必要な可能性はあります。

委員 私達もアンケートをとることがありますが、これにどれにも丸されなかったらどこへ行こうかなと悩むことがあります。

事務局 一般論として統計調査をやるときには、例えば国勢調査もそうなんですけども、書いておられない、拒否したり辞退したり、その他という分類がありますので、そこに小計されるだけです。

それは、男女別に分析するときに必要なことであって、それは別に分析する必要がなければ別に問題ないです。その場合も有効になります。

委員 はい、わかりました。もう一点だけよろしいですか。

違和感を覚えたのは、小学校5年生のアンケートですが、私がもし小学校5年生としてこれを見たときに、ルビが多過ぎるのではないかと。余りにもこんな簡単な漢字でもルビをふって、何か答える意欲をなくすというたら変ですけども、何か俺らばかりにしとんのかと、一部思わせる児童・生徒もいるかなとは思いました、正直なところ。私が5年生を選定されたのはどうしてですかというのは、そういう狙いもあったんです。だから、これからひょっとして1年生、2年生、3年生、4年生も使いたいのではないかと、それでこういうことをしてるのかと。もしここまで丁寧にするのでしたら、要望としては是非市政に参加するという意識を小学生のころから高めるためにも、市長さんの名前にも是非ふっていただけたほうがいいんじゃないかなと、逆に思います。意見です。

委員長 よろしいでしょうか。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。ただ、小学生がスムーズに解説しやすい、読みやすいということで、決してそういうばかりにしたようなことではございませんので、そのあたりは御理解をいただきたいと思います。

あと、市長名にルビということですが、ここは加東市に変更予定です。この文は案で出しておりますが、これを標準な必要の程度に改めまして、こちらのほうは検討させていただきます。当然、事務局が市というところがありますので、改めて検討したいと思います。

それで、小学校5年生、中学校2年生については、説明で申し上げましたが、通常は当然同じ義務教育の中にある加東の中で小学校、中学校がございまして、12校程度。その中に小学校の中で一般的に考えますと、しっかり今後の課題についても今ありましたようにかわり合いたい、意識を持ってもらいたい、それまでに6年生や5年生や、というところもあったのですが、一番高学年の5年生を設定してアンケートをとらせていただきたいということです。それと、中学生につきましては、中学校3年生になりますといういろいろなイベント等々がございまして、そのあたりにつきましては中学2年生を対象としているということで御理解のほうお願いしたいと思います。

また、委員様からいただいた意見の中で、最初の150社の中で事業者の規模に応じて御意見をいただいておりますけれども、今の現時点の案としましては、ピラミッド型、大きな1,000人以上の企業もあり、500人以上もある、ピラミッド型に応じた形で事業社のほうを、条件をつけた形で選定をしていきたいというふうに考えております。

委員 提案なんですけれども、アンケートの取っかかりとしては前回と比較できるほうがいいよねという委員様がおっしゃられるとおりなんで、そこは同じ意見なんですけれども、前回かどうかわかりませんが、この平成28年度版の加東市環境基本計画及び行動方針中間評価の報告と重点プロジェクト、これの6ページ、7ページを見てみますと、細分化されたそれぞれの市民アンケートの29項目の結果を円グラフにして何やら難しい評価になるような、ならんようなことが書かれています。細分化すればするものの焦点がぼやける部分もあるのかなと思いますので、比較するためにこういうまとめ方をしたのならそれはそれでいいと思うんですけれども、例えば市民の関心がどこにあるの

かつていうのはやはり大きくくりでないとわかりにくいと思っています。

私は環境パートナーシップ倶楽部をどういったところに焦点をそろえていったらいいのかなという話をもう4年前からしてきているんですけども、この概要版という資料のほうに、先ほど委員がおっしゃられた行動方針で12項目をまとめられているものであるとか、その前の前のページで基本方針と施策の方向が13項目もあります。こういった中ではどうしても例えば市民あるいは市の中の団体や事業者でかわれること、かわれないことっていうのがありまして、余り近いところをやられると、本当に散文化されてしまって焦点がぼやける部分がありますので、せめてアンケートの中でも地球環境あるいは生活環境、自然環境、意識啓発・学習なんかの4項目、こちらのところの基本方針というやつ、この中で、本当にどこに関心を持って生活をされているのかなというのは大きくくりで持った上で、どんなに焦点を定めて我々活動あるいは計画を立てていったらいいのかっていうのを絞り込んでいく材料としていただけたらと思います。そういうことは平成21年度、27年度の調査についても今からでもまとめられると思いますので、いかがなものでしょうかという提案です。

委員長 アンケートについて、もう少し重点を絞ってということではよろしいでしょうか。

委員 そういった見方をしてはどうでしょうかということです。

委員長 アンケートの内容については一応この辺にしといて、その後のデータのまとめ方について。

委員 アンケートの調査項目に関しても、小学生は例えばなんですけど、自然のいい香りするとか、小学生が読んだら、ああそうだなって、なかなか思わないのかなっていうふうに思っているの、例えば小学校5年生の意見を地球環境であっても3つに絞らずに書いてもらって、その他とかいれてもらって、一個の特性の地球環境でもあっていうものに対していっぱい出てくる意見、あっ、こういうことなんだと、ここへまとめるというふうにしていくほうがなかなかいいのかなと思います。例えば、自然環境については動植物って関心があるかっていうと、多分今の子どもたちなので、環境に意識を持ってもらうアンケートにした場合には、答えにくい部分がある。それに当てはまらなければ環境に意識がないんだって思ってしまうっていう怖さを感じたのが一つありました。

それと、私はほかの市から来させていただいているのですが、前回の基本計画を見させていただいた中で、ほかの市から加東市に勤務されているような、学生もそうですけど来られている方もいらっしゃると思うんで、そういった人に対してのアンケートというのがあってもいいのかなというのは思いました。学校も多いし企業も多いと思いますんで、そういった場合ほかの周りの市町村からどういうふうに見られているかというアンケートがあってもおもしろいのかなというふうに思いました。

委員長 ありがとうございます。

今の1つ目の部分です、それ以外に何かあった場合はもうあったほうがいいんじゃないかということです。最後まとめるのはちょっと難しくなるかもしれませんが、例えば、何か書いてくださいというようなところがあってもいいというふうに思っていますけど、いかがでしょうか。

それと、2つ目の、市外から勤務されている方について、そこまで広げると次回までには間に合わないんじゃないかという気がするんですけど、いかがでしょう。

委員 ある程度はそうするにしても、行政として近隣の市町村と連携をされていると思いますので、情報共有をして近隣の市町村ではどういう環境施策を持ってこれをされているのかということは反映して共有していけたらいいかなと思います。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。

一方で、これから今年度のうちにアンケートをやっていただいて、それを集計してこれからどうしていくかっていうのも考える、この期間があります。委員さんがおっしゃったように、ほかの市から見て、加東市ってどうなっているというところは、むしろしてないのかなというふうにも思いますし、そういったところもスケジュールと、今いただいた御意見、これを踏まえてもう一度その辺については内部のほうで検討していきたい

です。ただ、他市の方に特化したアンケートというところは、それは申しわけないです、なかなか現実問題としてちょっと難しい部分もあるんですけども、ただそういった視点というのは大事にしながら組み立てていきたいなというふうには思っております。

事務局 他市との連携とかというところなんですけども、いわゆる定住自立圏というものがあり、その中に環境の分野があります。そこの協定を結んだ自治体が、加西市さんと西脇市さんと多可町さんと連携しながらいろいろ一緒に、事務局のほうから説明させてもらいました地域共生圏とかの話がございましたよね。この地域だけではなく、もうちょっと広がったところで一緒に取り組んでいくことが環境施策を進める上では重要ではないかと、これは進めていきますので、それらも含めた形の計画づくりというものをこちらからも改めて提案させてもらいたいなというふうに思っております。

委員長 ありがとうございます。

委員 アンケートの件なんですけども、集計の仕方が難しくなるかもしれないし、前のアンケートとの比較っていうところを考えると難しくなるかもしれないんですけども、これは設問2のところでは8項目大きい項目が地球環境やら自然環境とかあるんですけども、興味のある方は例えば空気のきれいさっていうのを1って言うたら、すごいその1は大きいですね。

だけれども、例えば余り興味がないところでほんとに満足っていうふうに1入れられるのと、同じカウントになってしまうんですね。適当に興味があれば適当に3なんかにいっぱい印が入ると思います。

ただ、あなたが一番興味があるのはどれですかみたいな、8項目のうちで興味ある順番を例えば書いてもらって、配点されたらどうなんでしょう、難しいんでしょうか。だから、関心を持っては満足っていうのは本当は1ポイントやねんけども、配点30点とか、30点やったら3倍になります。

あまりかなというふうに思ったりするんですけど、その集計の問題があるのか、難しいんかわからないんですけども、どんなもんでしょう。

委員 例えば順番をつけてもらうというのが、順番1番、2番、3番、3つつけてくださいとか、4つつけてくださいとか、それで集計が1番については例えば10点とか、2番ついたら9点とか、そのようにルールを持って集計すると分析が簡易であると思います。

委員 興味ある項目、地球環境興味あるよっていう人の1点と、全然興味がない人の満足っていう1点と同じ扱いというのはどうかなというように思うんで。

委員 そうですね。どこにウェイトがあるのかというのがわかってきますし、我々が見る上で目が行くようになりますから、調整するということもありだと思います。

委員長 いかがでしょうか、今の御意見。事務局のほうとしましては、前回のアンケートとの比較とかという点ではいかがですか。

事務局 失礼いたしました。今回このアンケートの設問設定をする上で初回のアンケートと平成27年のアンケートをもとに次期の計画に反映できるような形という設計ということでしておりますので、今、委員さんが言われたその視点等が入っておりません。単純に8年前と今年、環境も変わっておりますし、市民の方の意識も変わっているという中での単純な比較はできるというか、今の傾向は出る内容になっているような設計となっております。

事務局 いいですか。

委員長 はい。

事務局 失礼します。それは環境のジャンル、優先順番ということなんですけども、担当も申しております。当然、自然の中でもそのジャンル、区分、それは全て一応環境については対象になってくるということでございます。

一応アンケートについては客観的な、先ほど担当も申しておりましたようにそれとの比較というところで今特に考えておりますので、時間の関係もありますんで、その辺のところは御理解いただきたいなというふうに考えております。

委員 アンケートの議論をしてるんですけども、アンケートっていうのは実際にこの設問の中に限られたことしか入れられませんので、もし可能だったらインタビューとかワークショップをすることで意見聞くとか、できるだけいろんな意見を聞ける場を持ったらいいかなと私は思います。

そういったことを、学校に行ってみるとか、そうすると生の声が聞くと、そこからいろんなことが発生してくる可能性がありますので、それを拾うことが重要ではないかなというふうに私は思います。

その他というのがあったんですけども、できるだけいろんなことを書いてもらうという、アンケート上そういった設計も入れてあげたら、ひょっとしたらいろんな意見を拾える可能性があるかなというように思いました。

委員長 何かありますか。

事務局 はい、今意見いただきました。

今日説明させてもらった資料2なんですけれども、資料2の関係で資料の一番頭にありますが策定体制というところで、ちょうど左側の中ほどに部会とかという形で記載させてもらっております。もう少し掘り下げて議論をしようではないかというようなことにこの市民会議でなれば、そういうそれぞれの分野別に掘り下げて議論をしていこう。そんなときには、前回のときも、委員さんが言われましたように高校生とか子供さんであるとか、また専門家を招聘したり呼んだりっていうような、そんなことを皆さん方と相談しながらやっていけたらなというようなことを思っております。

それと、アンケートの話なんですけども、先ほど来事務局から話はしているんですけども、アンケートにつきましても策定の資料の1の2ページ、中ほどより下なんですけれども、いろんなことの取り組みの一つとして市民アンケート調査というものを考えております。その中で、何度も申し上げてますのは前回との比較であるとか、5年前との比較であるとかということをもう一つの視点として捉えております。

当然のことながら、そこに書いてございますように皆さん方の会議においてというのは非常に重要なところになってきます。アンケートについては、そういう位置づけでやらせていただきたいというのも先ほど申し上げている部分ですけども、この環境基本計画策定については、今日は出席してないんですけども、テクニカルなところについては当然専門家、コンサルタントと契約してございます。当分コンサルタントと検討しながらアンケートどうするんだということも実際はやっていきたいと思っております。

皆さん方の今日の意見を踏まえさせてもらって、できるだけ採用できる、考えられるところについてはアンケートのほうで取り入れていき、修正をして実行していきたいなというふうに思っております。

それと、子供さんの、前の意見にありましたように5年生に対してルビが多過ぎるところについては、これも担当の先生方といろいろ話はまだしてませんので、当然そのチェックはしていただいて、対応させてもらいたいと思っております。

そういうことで以上、よろしいですか。

委員長 どうもありがとうございました。

委員 要は、例えばほかのアンケートはちょっとわからないこと、大抵興味ないことだったら多分3、3、3、3、3ばかりになるんです。興味あるところでも3、4といろいろしますけど、我々一連で扱ってしまうのはどうかなと思ひまして。そういう話をさせてもらったんですけど、今の集計上で前回との比較っていう意味ですから、興味ある順番というところを外して普通にただの数字として扱ってもらって、ほんまのところどうなんというところで8項目順番つけてもらったところで試験の配点みたいにパーセンテージを掛けて表示するっていうのは、機械仕事やからすぐできると思うので、そんなような細工もしてもらったらどうかなというように思っています。

興味ないことと、すごく興味ある部分を同率に扱うのはちょっとかわいそうかなという。答えが3ばかりでいいのかなと思うんですけど。

事務局 他の委員様からもそういう御意見をいただきましたので、そのあたりはコンサ

ルとも相談しながら、整理の仕方も踏まえて採用できるものは採用していきたいと思っております。

委員長 ほかによろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長 大丈夫でしたら今日の議会はこれまでということで、それではまた事務局のほうでお願いいたします。

以上